

注意点1



理論

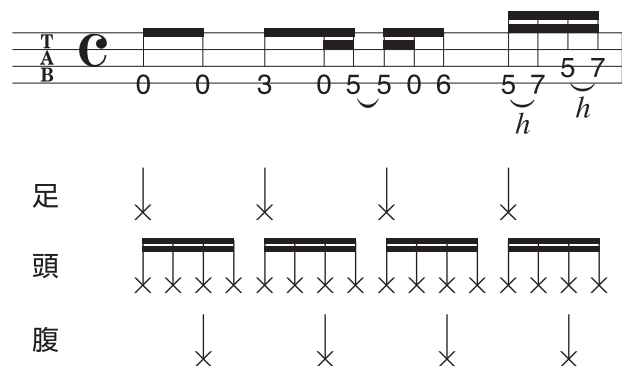
身体全体を使ってリズムを取るべし!

16ビートは、ベーシストにとって最もグルーヴを操ることのできるリズムで、まさに“ゴールデン・ビート”と言えるもの。ただし、実際の演奏時には、音符や休符を正確に取りながら、強弱もしっかり付ける必要がある。ノリを出すためには、4分音符のタイミングで足踏みを入れて、“チャカ・チャカ、チャカ・チャカ……”と、16分音符でタンバリンを振るイメージを頭の中に描くとよい(図1)。さらに、お腹の中で8分音符のウラ拍を感じるなど、身体全体を使ってリズムが取れると、鉄壁のグルーヴが完成するのだ。4ビートと8ビートは縦ノリ【註】だが、16ビートは横ノリになることを肝に銘じて演奏すべし!

図1 16ビートのリズムの取り方

・メイン・フレーズ1小節目

×…カウント位置



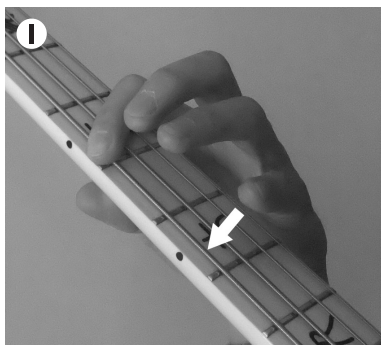
注意点2



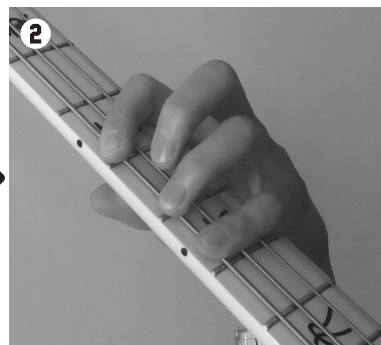
左手

グルーヴと高速化を生み出すハンマリングを覚えよう!

ハンマリング(写真①&②)は、グルーヴを出すために必要なテクニックの1つだ。フル・ピッキングで演奏すると、“カチツ”とした感じの固いノリになることが多いが、ハンマリングを使うことで、レガート感やスムーズ感といった“流れ”を演出できるのだ。この“流れ”をうまく利用することによって、リズムに“波”を作ることができ、このリズムの波がグルーヴやウネリとなるのだ。また、ハンマリングを使用すると、ピッキングを簡略化できるので音数を容易に増やすこともできる。ハンマリングをマスターして、グルーヴィなフレーズや速弾きに的確に対応しよう。



ハンマリングの基本動作。まずロー・ポジションを押弦をしておき……



左手の別の指を指板に叩きつけて発音する。指は、真っ直ぐ振り下ろすように心掛けよう。

注意点3

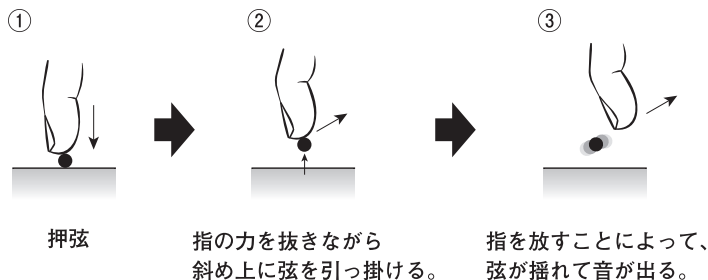


左手

指紋を擦るような感じで引っ掛けながら離弦しよう

プリングは、押弦している指を弦から離して音を出すテクニックだ。ただし、指を弦から真っ直ぐ離しただけでは音がハッキリ出ないため、指紋を擦るような感じで、引っ掛けながら弾くことが大切だ(図2)。プリングは、ハンマリングと同様にグルーヴを生み出すための重要なテクニックと言える。また、タッピングなどの上級テクニックを弾く際にも必要になるのだ。今後、読者のみんなが目指すであろう花形テクニックの原型になるので、ハンマリングと併せてじっくり練習してみたい。まずは、梅フレーズの4小節目などを使って、プリングの基本動作を指に覚え込ませよう。

図2 プリングの弾き方



【縦ノリ】 垂直方向に身体を動かしたくなるようなリズム。ヘッドバンキングを自然に促すメタル系の楽曲は、縦ノリが多い。一方、ジャズやR&Bなどのグルーヴ感のあるリズムを“横ノリ”と言う。